

技術協力活動と研修活動の連携

第5回：複合プログラム型

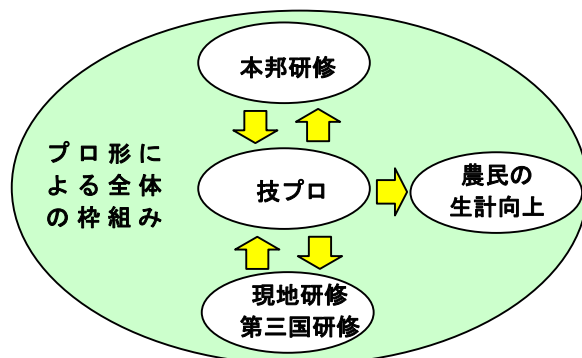
本シリーズでこれまでに紹介してきた事例は、研修事業のフォローアップ、技プロとの連携、第三国研修の利用のように既存スキームの充実あるいは組み合わせを基本としている。しかし実際には、こうした既存スキームにこだわらずに、プロジェクト形成（プロ形）の段階から現場のニーズに応じて、技術協力活動と研修活動を含む様々な活動を包括的に推進すべきであろう。過去の開発調査や技プロでのカウンターパート研修は別予算で追加的に実施されていたが、最近では本格活動の一部として当初から組み込まれた形で実施されるようになってきている。これは技術協力活動と研修活動の連携の重要性が見直されてきていることの証であると考えられる。

ここでは、プロ形の段階から技術協力活動に研修活動が組み込まれたプロジェクトを想定し、「複合プログラム型」として実施することを提案したい。事例として、中央アジア地域の果樹栽培技術改善を通じた生計向上プログラムを取り上げてみる。タジキスタン・ウズベキスタン農業・農村開発研修ニーズ調査報告書によると、同地域に対して今後考えられる研修コースとして、果樹栽培が挙げられている。確かに中央アジア地域の気象条件下においては、高品質の果樹栽培に対する潜在性が高い。タジキスタンで生産されるブドウの価格水準は一般のものよりも高く、落葉果樹の苗木は周辺諸国に輸出されている。そこで、果樹栽培における制限要因を明らかにすることによって果樹栽培技術の改善を図り、果樹の生産性向上と生産の安定化を目指すことは、同地域の農業開発にとって極めて重要である。

こうした背景の下、果樹栽培における適正な土壌管理、病害虫防除ならびに剪定、摘果の導入による果樹の品質管理を実現することにより、生産物の品質向上と生産性の安定をはかり、果樹栽培農家の生計向上を達成することを目的とするようなプログラムを中央アジア地域において実施することは極めて有望と考えられる。この場合、プロ形の段階においては現状分析と支援分野の確認を行い、プログラムの実施に際しては果樹栽培基礎技術の習得を目的とした研修事業と現地での技術協力を実施する技プロの組み合わせを検討する。このように様々なスキームを効率的かつ包括的に推進していくことによって、より効果的な支援が実施できる。また、こうしたプログラムの推進に際しては以下のような諸点に注意を払うことが極めて重要であると考えられる。

- プロジェクト形成の段階から研修ニーズをつかむ努力を行う。
- プロジェクトの実施に際しては、研修の位置づけや役割を明確にする。
- 現地での研修活動ならびに本邦での研修活動のデマケを明確にする。
- 本邦研修に期待すべき内容を明確にし、それが確実に実施できる体制を整える。

つまり、プロ形の段階では果樹栽培現況の調査ならびにニーズの把握を行うと同時に、今後の果樹栽培技術の向上にとって中心的な役割を果たすであろう受け入れ国の関係機関と共に具体的な開発計画を検討する。また、開発計画の実施に必要な人材育成計画も検討しなければならない。さらに、プロ形の成果として、どのような果樹に、どのような技術指導を実施すれば、どのような成果が上がるのかを確認し、それに見合った協力プログラムを提案・合意する。プログラムの設計に際しては、現地および本邦での研修活動ならびに現地でのプロ技を必要に応じて配置する。特に、本邦研修の実施に当たっては、「中央アジア地域別研修果樹栽培」といったコースの実施を検討し、JICAの研修センターや大学、あるいは果樹試験場等の機関が有機的に連携できるような体制を整える必要がある。



温室内での果樹栽培（タジキスタン）